

研究成果物の使い方

1 「学級全体で行う活動の指導のサイクル」(資料1)について

教員の「振り返る」ための指導に対する意識を高め、幼児の振り返りを「見通す」「活動する」の指導に生かせるよう、学級全体で行う活動の指導について図式化して示した。

2 「振り返りの指導の工夫3つのポイント」(資料2)について

振り返りの指導の工夫について、東京都教職員研修センターによる先行研究(「自尊感情や自己肯定感に関する研究」平成20年度～平成24年度)を参考に、3つのポイント「思い出す」、「自分のよさに気付く」、「期待や意欲につなげる」を明確にし、指導の具体例を整理した。

3 「振り返りを次の指導に生かすシート」と 「学級全体で行う活動の指導の工夫例」(資料3)について

幼児の振り返りから幼児なりの思いや願い、経験したことや幼児のよさ、教員の願いを整理し、次の活動の指導の重点や具体的な指導内容を考える際に、関連付けて捉えられるようにした。教員の願いや具体的指導を考える際、「学級全体で行う活動の指導の工夫例」を参考にできるようになっている。

4 「経験のつながり整理シート」(資料4)

経験したことや幼児のよさを次の活動につなげていくため、幼児の振り返りを意図的に計画できるよう、活動のねらいや、振り返りの言葉掛け、幼児の振り返りに対する言葉掛けを整理し、活動と活動のつながりを視覚化できるようにした。使用例では、検証保育の実践例を参考として載せた。

「学級全体で行う活動の指導のサイクル」

資料 1

「振り返る」ための 指導の工夫

「振り返りを次の指導に
生かすシート」(資料 3)
を活用し、「見通す」「活動
する」ための指導につな
げる。

【思い出す】
【自分のよさに気付く】
【期待や意欲につなげる】
「振り返りの指導の工夫
3つのポイント」(資料 2)を
押さえた振り返りを行う。

「見通す」ための 指導の工夫

【興味や関心をもつ】
これまでの経験と関連付けたり、
比較したりできる活動内
容にする。

【内容や流れが分かる】
視覚教材を効果的に活用
する。

【目的やめあてをもつ】
幼児の考えや思いを受け
止め、取り入れながら、活
動の内容や進め方を幼児
と一緒に作っていく。

振り返る 見通す

活動の過程

活動する

期待や意欲に
つなげる

興味や関心
をもつ

自分のよさに
気付く

内容や流れが
分かる

思い出す

自分なりの目的
やめあてをもつ

粘り強く
取り組む

意欲的に
取り組む

「活動する」ための 指導の工夫

【意欲的に取り組む】
幼児一人一人の目的やめあてに合わせて、支えたり、応援したりする。

【粘り強く取り組む】
つまずきや葛藤を幼児が自分の力で乗り越えられるように、幼児一人一人の実態に合わせて助けたり、
アドバイスしたり、見守ったりする。

振り返りの指導の工夫3つのポイント

ポイント	指導の工夫の具体例
思い出す	<p>幼児が思い出せるようにするために… <u>できたかどうかではなく、どのように取り組んだか思い出せるようにする</u> 自分のできたこと（結果）を思い出すのではなく、「どうやったらできたのかな。」「どうしたいと思っていたのかな。」など、どのように取り組んだか（過程）を思い出せるよう声掛けをする。</p> <p>考えていたことや感じたことを、自分なりの言葉で表せるようにする 動画を使用する場合は、幼児に特に思い出してほしい場面で止め、その時考えていたことや感じたことを思い出すきっかけを作り、幼児なりの言葉で表せるようにする。言葉にすることが難しい場合は、教員が代弁したり、友達の言葉を取り入れたりする。</p> <p>写真や動画を効果的に活用する 実際に取り組んでいる様子の写真や動画をきっかけに、幼児自身が取組を思い出せるようにする。撮影場面は、これまでの幼児の実態と比べて、少しでも主体的に取り組もうとしている場面や、うまくいかなかった場面等、振り返りで取り上げたい場面に合わせた撮影ができるようにする。</p>
自分のよさに気付く	<p>幼児が自分のよさに気付けるようにするために… <u>幼児なりの考えや感じたことを、肯定的に捉え受け止める</u> 幼児なりの考えや感じたことに対して、どんな些細な事でも受け止めたり、つまずきや葛藤の中から幼児なりに取り組めたことや、幼児のよさを見付け出したりして、肯定的に捉える。</p> <p>自分なりの取り組んだこと、これまでとの変化等、様々なよさに気付けるようにする 自分なりに取り組んだことや、取組の中で気付いたこと、少しでも以前と変化したことなど、様々なことが自分のよさであることに気付き実感できるように、具体的に認める言葉を掛ける。</p> <p>友達や教師に認められる機会を作る 友達や教員からの言葉が自分のよさを実感することにつながっていくため、周りの友達からも気付いたことや感じたことを聞けるような進め方をする。教員自身も認める言葉だけではなく、気付いたことや感じたことを伝える。</p>
期待や意欲につなげる	<p>幼児が期待や意欲につなげられるようにするために… <u>今の自分を認められるようにして、次を楽しみにできるようにする</u> 経験したことや自分のよさを次の活動への期待や意欲につなげられるよう、どのようなことをしたいかを聞いたり、次の活動について知らせたりする。また、次の活動の「見通す」でも、振り返ったことを思い出せるようにして、つなげて考えられるようにする。</p> <p>自信のなさや不安な気持ちを支え、安心できるようにする 自信をもてずにいる際には、無理に期待や意欲をもたせるような言葉を掛けるのではなく、いつも応援していることや、困ったときには助けることを伝え、幼児が安心できるようにする。</p> <p>振り返ったことを可視化し、いつでも確認できるようにする 幼児なりに気付いた自分のよさや、次の活動への期待や意欲について、ホワイトボードなどに絵や文字を使って書き出し、幼児が振り返ったことをいつでも思い出し確認したりできるようにする。</p>